

目次

資料 偏	1
1-1 藻岩山の歴史と経緯	1
1-2 藻岩山魅力アップ構想(概要版)	3
1-3 第2次札幌新まちづくり計画(藻岩山関係分)	5
1-4 環境配慮ガイドライン	7
1-5 藻岩山魅力アップ構想施設再整備事業者選定プロポーザルの結果	8

1 - 1 藻岩山の歴史と経緯

1 - 1 - 1 藻岩山の歴史

今後、基本計画を進める上で参考となる主な歴史的出来事について整理する。

主な出来事	年	備考
山火事の発生	明治期	藻岩山南斜面が数回にわたる山火事で原始林が消滅
レルヒ少佐らが藻岩山スキー登山実施	明治 45 年 (1912)	オーストリア軍人レルヒ少佐が旭川第 7 師団幹部、月寒歩兵 25 連隊とともに実施。
原生天然保存林に選定	大正 4 年 (1915)	藻岩山原始林が、宮部金吾博士の強い提唱により北海道庁が原生天然保存林に選定。
北海道第 1 号の史跡名勝天然記念物に選定	大正 10 年 (1921)	藻岩山原始林が、円山原始林とともに選定される。
北斜面にㄱ-コース設置	昭和 21 年 (1946)	駐留米軍が北斜面の 1 部を接收し、ㄱ-コースとする。
ロープウェイ開業 事業者：札幌市交通局	昭和 33 年 (1958)	北海道大博覧会に合わせて開業される。8 人乗りゴンドラ 30 両が 1 分間隔で運転、山麓 山頂間を約 10 分で結ぶ。
藻岩山観光道路開通	昭和 33 年 (1958)	藻岩山の観光開発のため、全長 6990m、有効幅員 6.5 m の自動車専用道路が建設される。
藻岩山市民スキー場開業	昭和 33 年 (1958)	駐留米軍市民スキー場の代替として、現在の南斜面に開設。旧スキー場は植生復元へ。
山頂駅 頂上間のリフト整備	昭和 35 年 (1960)	札幌市交通局によりリフトが設置される。
藻岩山観光道路舗装整備	昭和 42 年 (1967)	藻岩山観光道路の舗装整備が行われる。
展望台設置	昭和 44 年 (1969)	札幌市交通局により、山頂に展望台施設設置
現在のロープウェイ開業	昭和 47 年 (1972)	昭和 45 年改造に着手し、昭和 47 年に 66 人乗りゴンドラ 2 両が山麓 山頂間を 5 分で結び現在の 4 線交走式として開業。現在のロープウェイ停留場も建設される。
山頂駅 頂上間のリフト改修	昭和 50 年 (1975)	札幌市交通局によりリフトが改修される。
(株)札幌交通開発公社設立	昭和 60 年 (1985)	札幌市交通局からロープウェイ付帯施設を引き継ぐ。
ロープウェイ山麓停留場増築	昭和 60 年 (1985)	乗降客溜り場他が増築され、現在の形状となる。
合併により(株)札幌振興公社が運営開始	平成 10 年 (1998)	(株)札幌振興公社がロープウェイ・観光道路・展望台の運営を開始し現在に至る。

1-1-2 調査の経緯

これまでの経緯

2000年に新たに定められた「第4次札幌市長期総合計画」にもとづき、藻岩山観光振興ビジョン基礎調査が開始され、それ以降、下記に示すとおり今日まで各種調査が行われ、このたび基本計画をまとめる段階となった。

2000年以降の主な調査内容

1	第4次札幌市長期総合計画	平成12年 (2000)	札幌市企画調整局	平成12年4月から20年間を目標に、都市像やまちづくりの方向性を示す基本構想が第4次札幌市長期総合計画として策定された。
2	藻岩山観光ビジョン策定	平成14年 (2003)	札幌市経済局	藻岩山観光3事業(ロープウェイ、展望台、観光道路)の現状整備及び施設調査を行い、事業の今後の方向性についてとりまとめを行う。
3	藻岩山観光魅力アップ調査	平成15年 (2003)	札幌市経済局	市民、観光客、観光関連業界、登山者の各ニーズ、植生・生態系、法的条件などの調査及び藻岩山の位置づけを行うと共に、今後の事業実施にあたり課題のとりまとめを行う。
4	藻岩山の魅力を考える懇談会	平成16年 (2004)	札幌市観光文化局	藻岩山の魅力を考える懇談会を(平成16/11~平成17/3)4回に渡り開催、さらにモイワヤマ通信を4回発刊する。また、シンポジウムやフォーラム等を通じ多くの市民からの意見を集約し、事業実施に向けた基盤づくりを行った。
6	藻岩山魅力アップ構想	平成19年 (2007)	札幌市観光文化局	今までの調査結果を踏まえ、事業の実施を念頭に、具体的構想案を作成すると共に、今後の事業推進における課題を整理した。
7	第2次札幌新まちづくり計画	平成19年 (2007)	札幌市市民まちづくり局	札幌市の中期実施計画(平成19~22年度)であり、「藻岩山魅力アップ事業」が計画事業として位置づけられた。
8	藻岩山魅力アップ構想施設再整備事業準備室の設立	平成19年 (2007)~	(株)札幌振興公社	事業の実施に向け、実務担当者による準備室を開設する。
9	藻岩山環境配慮ガイドラインの策定	平成20年 (2008)	札幌市観光文化局	評価手続きに準じた調査及び予測・評価に取組み、藻岩における具体的な環境保全措置方法を検討する。
10	藻岩山魅力アップ構想施設再整備事業選定プロポーザルの実施	平成20年 (2008)	(株)札幌振興公社	展望台の設計・事業者を選定することを目的として公募によりプロポーザルを実施した。

1-2 藻岩山魅力アップ構想(概要版)

1 市政における本構想の位置づけ

藻岩山魅力アップ構想は、「第4次札幌市長期総合計画」のうち、環境、経済、市民に関連するものであり、この施策の体系は以下の通りです。

<p style="text-align: center;">人と自然が調和したまちづくり 緑ゆたかなうるおいのあるまちづくり（抜粋）</p> <p>緑は、札幌の都市個性や良好な都市環境を形成する重要な要素であり、市民共通の貴重な財産となっている。また、今後、市民の自然への関心や自然に触れる機会へのニーズがますます高まっていくものと予想されるため、市民一人ひとりが緑に親しみながら、市民・企業・行政のパートナーシップにより、緑を守り、育て、増やしていくことが必要である。</p>	<p style="text-align: center;">新しい時代を先導する産業の育成と活力ある企業活動の推進 新しい時代に向けた戦略的な産業の振興（抜粋）</p> <p>今後、経済の活力を高めていくためには、都市の魅力を生かしたまちづくりを一層進めながら、観光やコンベンションなど、さまざまな目的で札幌を訪れる人々の集客交流を促進し、それを支える幅広い産業分野を集客交流産業として位置づけ、重点的に振興していくことが必要である。</p>	<p style="text-align: center;">ゆたかな都市文化の形成 文化的資産の保存と活用 スポーツ・レクリエーションの振興（抜粋）</p> <p>文化財や埋蔵文化財などの調査・保存を推進し、これらを文化的活動などに積極的に活用する。雪や寒さを生かしたスポーツ・レクリエーション機会の拡充など、冬の暮らしをゆたかにするための環境づくりを進める。</p>
---	---	--

2 藻岩山魅力アップの基本的方向

(1) 藻岩山の特徴と目指すべき姿

・特徴

① 世界的にも貴重な人口180万都市に隣接する原始の姿をとどめた国有林 ② 約450種の植物や約80種類の野鳥などに会える森 ③ 北海道で第一号に指定された天然記念物の森(大正10年～) ④ 鳥獣保護区に指定された森(昭和61年～) ⑤ 札幌の街を一望できるという地勢から「札幌の発展を見守ってきた山」※アイヌ語でインカルシベは、「いつもそこから眺めるところ」の意味⑥ 毎年約50万人が訪れる展望の名所 ⑦ スキー、登山、展望など市民のレクリエーションの場 ⑧ 札幌市内の小中学校の校歌に歌われることが多く、札幌市民の「心の山」的な存在

・目指すべき姿

札幌が感じられる場所・札幌が見える場所＝環境文化都市・集客交流都市のシンボル

藻岩山は、豊かな自然環境との調和を図るまちづくりをすすめるという意志に支えられ、貴重な原始の姿をとどめる国有林としてその保全が図られてきており、180万都市となった現在でもこの森林は守られています。藻岩山は自然と共生する札幌のまちづくりの象徴として、多くの市民が誇りに思い、札幌を感じられる場所・見える場所として、市民や観光客の区別なく誰もが訪れたいような場所となることを目指します。

(2) 取り組みの方針

藻岩山の魅力アップに際しては、大都市と大自然の接点として、また、市民の愛着と自慢の山として、様々な期待に応えるため、以下の3つの取組方針を掲げます。

森林環境資源の持続的利活用と環境負荷の低減

誰もが藻岩山や札幌の価値を楽しみ学ぶ仕組み・空間の形成

藻岩山の魅力を高め、持続させる活動への多様な主体の参画促進

(3) 魅力アップの方向性

先に掲げた3つの取組の方針を実現していくため、魅力アップの方向性は次のとおりとします。

<p>山頂・中腹</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来訪者が大都市に隣接する森林(天然記念物の森を含む)の重要性を理解するための森林学習機能の充実 ・札幌を一望できる藻岩山の特性を活かした札幌の地勢・歴史・文化などを効果的に紹介する仕組みの提供 ・天然記念物の原始林に配慮をしつつ、利用者の安全面を考慮した維持管理を継続。気軽に森林を学ぶことのできるスポットの整備 ・自然環境に優しく、誰もが山頂にアクセスするために、重要な交通手段であるロープウェイの改修 	<p>山麓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに目を楽しませてくれる演出など来訪者を歓迎する雰囲気づくり ・山麓周辺の文化施設と連携し、札幌をより深く理解できるような仕組みの検討 ・都心部から藻岩山までのアクセスは、市電の利用も藻岩山にとって重要なことから、市電停留所(ロープウェイ入口)からロープウェイ山麓駅に向かう歩行環境を改善 	<p>ソフトの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に誰もが藻岩山を楽しみ学ぶ機会となるソフトメニューの提供 ・森林環境を楽しみ学ぶ解説案内や体験、自然環境や眺望をテーマとした展示、藻岩山の日ははじめとする藻岩山の自然環境に相応しいイベント、教養教室の充実 ・地域の住民や事業者と連携した周辺地域の魅力をつなぐ仕組み作り、ソフトメニューのプログラムや実施に関する広報。 ・多様な主体の参画 ・人材育成
--	---	--

3. 「藻岩山」に求められる機能

観光客、市民など多様な利用層のニーズに応える6つの項目

(1) 森林学習機能

・「藻岩山の森」への興味と理解

「天然記念物の森」「札幌の生い立ちと深く関わる山」であることを効果的に紹介、藻岩山の貴重な森林環境への興味と理解を図る仕組み。

・「藻岩山の森」を楽しむ

木をモチーフとしたクラフト作品など森林空間にふさわしい工芸作品とふれあう場、森林環境を気軽に体験、体感できる空間。

・「藻岩山の森」の保全と維持

藻岩山の森を体感し、森林環境の研修を行うことにより、多くの方に森林の重要性を理解してもらい、植樹活動などの森林環境の復元や保全・維持活動や、市民や観光客が森林の保全活動へ参加する場の提供。

(2) 札幌紹介機能

・藻岩山の眺望を最大限活用した、札幌の地勢、歴史の紹介

眺望と市街地の形成などの札幌市の地勢、歴史を関連づけ紹介する。

・地域密着型ガイドの育成

山麓地域に位置する文化施設などと連携したガイドプログラム。

(3) 展望機能

・通年をとおして眺望を楽しめる場

冬場の夜景はより魅力的なため、札幌市街地の夜景を通年をとおして楽しめる展望スペースの提供。

(4) 休憩機能

・特別な時間を過ごすことのできる空間の提供

眺望や夜景の魅力を中心に、来訪者が何度も訪れたいようなカフェ・レストランや森の中でゆったり佇むことのできる空間の提供。

・誰もがくつろぐことのできる空間の提供

市民や観光客、登山客が森の中やきれいな空気を体感しながら休憩できるスペースの提供。

(5) 交流機能

・市民や登山者、観光客が交流することのできる場の提供

- ・多様な人がくつろげ、交流できる場。
- ・藻岩山の動植物の写真、絵画展など多くの市民が参加できるような藻岩山になじんだ催事。

(6) アクセス・インフラ

・通年利用、環境負荷の観点から有効なアクセス手段であるロープウェイのリニューアル

・水量的な問題、衛生面の課題を改善

・環境、衛生面の課題を改善

4. ソフト事業の展開

平成16年度に行われた「藻岩山の魅力を考える懇談会」の提言を受け、平成17年度より、藻岩山の日や月見コンサート、ワイン教室、自然体験(エコツアー)、地域密着ガイドの発掘などを行っている。

(1) 森林学習機能関連

藻岩山の貴重な森林環境を体験し、学ぶことが出来るメニューとして、具体的には、植林、森林教室、自然観察、森林浴、木工等の細工体験、オリエンテーリング、森林療法などが挙げられる。このような事業には、藻岩山の森林空間の特性を活かした説明や現地のご案内、野外活動の技術・安全行動の指導などの実施が考えられるため、活動の中心となるガイドを養成する研修の充実も求められる。

さらに、これらの体験事業に参加した方が藻岩山の自然保護や清掃美化活動に参加していくことが期待される。

(2) 札幌紹介機能関連

藻岩山からの眺望を活かし、札幌の地勢、歴史、文化の紹介を行うメニューとして、周辺の文化学習施設を始め、札幌ゆかりのスポットを周遊する「地域に密着したガイドプログラム」や「展望と札幌のガイドを組み合わせた山頂で行うミニガイド」などが挙げられる。

(3) 交流機能関連

藻岩山を題材とした絵画や写真の展示を行うなど、登山者など普段から藻岩山に慣れ親しんでいる方々も参加いただけるような企画が望まれる。

また、市民や観光客を問わず、冬山ならではの世界を楽しみ、交流できるイベントの展開も考えられる。

ソフト事業の展開にあたっては、既に藻岩山で活動している団体を含め、事業者、NPO、市民団体、一般市民のより一層の参画を図るとともに、持続的に藻岩山の魅力を発信する仕組づくりが望まれる。

5. 施設等の検討

(1) 各エリアの特性

- ・山頂～中腹 眺望ポイントの存在、中腹に平地が存在
- ・山麓～ロープウェイ山麓駅から駐車場付近は断続的な傾斜地

(2) アクセス・インフラ

①山麓から山頂までのアクセス

ア.登山道

藻岩山の自然体感ルートとして、樹名札や誘導サインの充実、登山道の補修。

イ.観光道路

観光用、物資搬入などの業務用、ロープウェイの停止などの緊急時の下山手段として複合的な利用をしている現状から、CO₂排出などに配慮しながらの利用。

ウ.ロープウェイ

都心からのアクセス、景観への配慮、藻岩山の貴重な森林の環境負荷などを考慮した結果、現行ルート及び可能な限り現施設を生かした改修。

②山麓駅までのアクセス

- ・市電停留所(ロープウェイ入口)からロープウェイ山麓駅に向かう環状通の拡幅工事に併せて、街並みに配慮した総合的な整備。
- ・山麓駅までの道路が急勾配となっており、歩行者にとって負担となる歩行環境にあるため、快適でやさしい機能となるような整備。

③インフラ

水量、環境、衛生面の課題を改善するため、給水設備は上水道との接続が、排水設備は下水道との接続。

6. 配置される施設の概要

(1) 展望台施設

屋上展望台、屋内展望台、展望テラスや市民、登山者、観光客に対応するための飲食施設、登山者休憩室、トイレの配置。また、藻岩山の貴重な自然環境を後世に伝えるべく、自然研修室の配置を検討。展望台施設は、長寿命化や省エネルギー設備の採用、間伐材などを含む低環境負荷材の採用を検討。

(2) 展望台周辺

敷地の一部に植樹を行うなどにより、自然環境の復元を検討。前述の自然研修室に復元事業を紹介し、長年にわたり、経過観察が出来る仕組みを取り入れることの検討。

(3) 山頂～中腹のアクセス

遊歩道等の自然を体感できるルートの充実。天候に左右されず、利用者の利便性を考慮した施設導入の検討。

(4) 山麓駅周辺

現行ルートを基本とし、傾斜のきつい歩行環境を改善するため、来訪者の歩行環境の向上を図り、歩行支援施設を導入。

(5) 観光道路

現在、山頂にある自家用車駐車場機能をロープウェイ山頂駅周辺に移設することも含め、環境負荷低減の面から、自動車利用のあり方を検討。

7. その他

当構想の具体化にあたっては、北海道森林管理局など藻岩山に関連する行政機関及び事業者との協議や、環境配慮のためのガイドラインを策定の上、計画化を図るものとする。

重点課題 4 新たな集客交流資源の創出と魅力の発信

施策と事業

施策の基本方針

世界の集客交流都市さっぽろの実現を目指し、札幌の魅力である、食や自然、文化芸術などのハード・ソフトの資産を集客交流資源として積極的に活用し、札幌独自の魅力づくりや観光資源の発掘を行うとともに、受入対応を充実するなど、観光やコンベンション*の一層の振興を図ります。また、道内各市町村とも連携して道内各地の食や観光などの情報を発信する拠点機能を充実するなど、集客交流を推進します。

重点課題 4

新たな集客交流資源の創出と魅力の発信

施策1 観光魅力づくりの推進

施策2 観光客及びコンベンションの受入強化と誘致促進

施策3 道内各市町村と連携した魅力の発信

施策1 観光魅力づくりの推進

さっぽろ雪まつりやライラックまつりなど札幌の四季の魅力を発信するイベントや札幌の代表的な観光スポットである藻岩山などの既存の観光資源について、より多くの観光客が訪れ楽しめるよう、さらなる魅力アップを図ります。

また、大通公園において食をテーマとした秋のイベント事業や冬のスケートリンク設置を行うなど、都心の魅力や美しい都市景観、食や文化芸術といった札幌独自の魅力を融合させ、新たな観光魅力づくりや観光資源の発掘を推進します。

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
さっぽろ雪まつり魅力アップ事業 観)観光部 [112百万円]	市民参加・体験型のさとらんど会場の魅力アップを図るため、市民参加のしくみや組織づくりへの支援や子ども向け体験学習事業を実施するほか、駐車場・トイレ増設などおもてなし向上の取り組みを行います。 ○参加団体数 H18：9団体 ⇒ H22：15団体 ○雪まつりの満足度 H18：57.7% ⇒ H22：70.0%
ライラックまつり魅力アップ事業 観)観光部 [112百万円]	ライラックまつりにおいて、大道芸やパフォーマンス*など多彩な札幌文化の楽しみや食の充実を図るほか、中国大連市アカシアまつりとの提携によって相互交流を図り、中国からの観光客誘致につなげていきます。 ○観客数 H18：346,700人 ⇒ H22：500,000人
「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担 経)国際部 [40百万円]	姉妹都市ミュンヘン市の伝統行事であるクリスマス市を、ホワイトイルミネーションを実施している大通公園で開催し、ミュンヘンの文化を感じる冬の集客交流イベントとして推進します。 ○来場者数 H18：44.6万人 ⇒ H22：50万人
藻岩山魅力アップ事業 観)観光部 [604百万円]	老朽化したロープウェイや展望台などの施設について、自然環境に配慮しつつ、バリアフリー*化に対応した再整備を行うほか、「藻岩山の日」などのソフト事業をさらに展開することによって、藻岩山の魅力アップを図ります。 ○藻岩山の再整備 H18：－ ⇒ H22：整備

*パフォーマンス：街頭などで行う演技、演劇、演舞などの表現。

パブリックコメントによる市民意見

第2次札幌新まちづくり計画のパブリックコメントで「藻岩山魅力アップ事業」に関するものは、下記のとおりである。

意見の概要	市の考え方
<p>「藻岩山魅力アップ事業」 8件</p> <p>○市電を降りてから藻岩山までの坂が歩きにくいいため、入口まで乗り物があるとよい。</p> <p>○気軽に展望台から街を一望できるとよい。</p> <p>○札幌駅前、大通、薄野から循環バスで行けるとよい。山頂では、写真撮影やイヤホンによる外国語案内、札幌の食の提供などのサービスをしてはどうか。</p> <p>○展望台などの改修や、森林環境や眺望を活かした取り組みによって、藻岩山を訪れる人が増えることに期待している。</p> <p>○山麓駅から旧小熊邸、水道記念館まで散策できるよう整備してほしい。</p> <p>○登山者休憩室に更衣室をつくってほしい。</p>	<p>バリアフリーの観点から坂道での負担を解消するため、歩行支援施設（スロープカー）などの設置を検討していきます。</p> <p>現状ではらせん階段以外に展望台に上る方法はありませんが、新しい施設では誰もが簡単に展望台に行けるようにするほか、雨や雪の日には屋内からも外の眺望や景色を楽しめるような工夫をする予定です。</p> <p>いただいたご意見は、今後の藻岩山魅力アップの取り組みの参考とさせていただきます。</p> <p>計画事業を着実に実行し、藻岩山の来訪者の増加を図っていきます。</p> <p>ロープウェイ山麓駅と水道記念館を散策路で結ぶことができると、新たな魅力づくりにつながると考えていますが、散策路を整備するにあたっては、双方の施設間にある沢の規模が大きいことやルート上にある石や岩の除去といった作業などが必要になることから、関係部局と調整を図りながら整備の可能性や手法などを考えていく予定です。</p> <p>登山者休憩施設には、更衣室の設置を検討する予定です。</p>
<p>○環境に配慮し、木が切られ自然破壊を招くような、山頂の歩行支援施設はつくりたくないでほしい。</p> <p>○展望台周辺には自生していない植物があるが、札幌の生態系に配慮した造園事業を行うべき。</p>	<p>「藻岩山魅力アップ構想」に基づく整備については、市民参加による意見交換会や学識者による懇談会での検討を経て策定される環境配慮ガイドラインを踏まえて、導入や設置が決定されます。環境への配慮は、整備を進めるにあたっての最も重要な課題と考えていますので、山頂のアクセス手段についても、このガイドラインに沿って検討することが必要と考えています。</p> <p>なお、「藻岩山魅力アップ事業」については、自然環境への配慮をしながら進めていくことを明らかにするため、計画書の事業内容の部分にその旨の記述を加えます。</p> <p>「藻岩山魅力アップ事業」における緑化については、生態系に十分配慮しつつ進めていく予定です。</p>

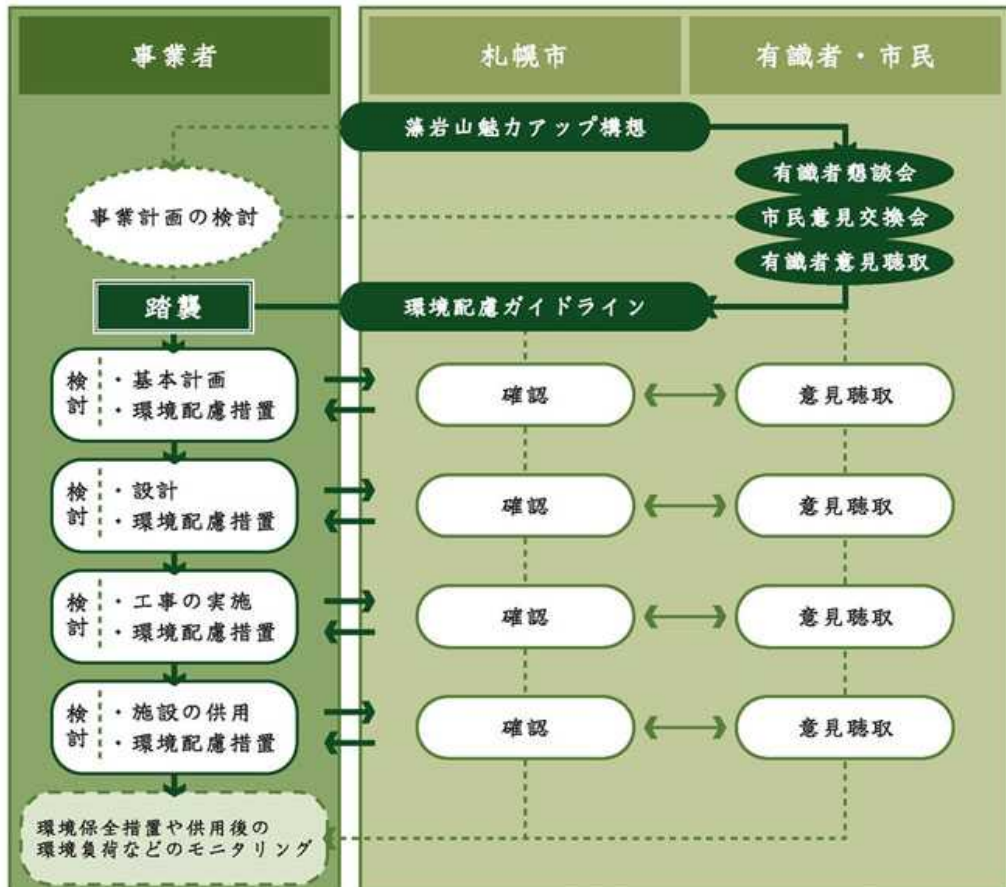
1-4 環境配慮ガイドライン

札幌市では、環境に著しい影響を与えるおそれのある事業を行う前に、事業者自らが環境への影響について調査及び予測・評価を行い、その結果に基づいた環境保全措置を事業計画に反映させ、環境の悪化を未然に防止することを目的に、「札幌市環境影響評価条例」を平成11年12月に制定した。また、事業者は常に環境の保全に配慮する必要があるため、環境影響評価の手続きに先立って、事業計画の段階から工事中及び供用後までを念頭においた環境配慮を行うために、事業段階毎の配慮事項を示した「環境配慮指針」が環境影響評価条例に基づいて策定された。

藻岩山魅力アップ構想施設再整備事業は、環境影響評価条例の対象事業に該当しないが、藻岩山の自然環境条件などを考慮し、初期段階から可能な限り環境配慮を行ったうえで事業を推進する必要があるとの認識のもと、各種公共事業と同様に環境配慮の指針となる「環境配慮ガイドライン」を策定し、環境配慮の推進に努めることとした。

札幌市では、現地調査、環境影響の予測及び評価、市民意見交換会や学識者懇談会における意見聴取を経て、平成19年度に『藻岩山魅力アップ構想に係る環境配慮ガイドライン』（以下、「環境配慮ガイドライン」という。）を策定した。

施設再整備事業の実施にあたっては、下図に示すように、基本計画、設計、工事、供用に至る各段階で、環境配慮ガイドラインに示された環境配慮方針に基づいて環境配慮措置を検討し、有識者や市民の意見も踏まえながら環境保全に努める。



1-5 藻岩山魅力アップ構想施設再整備事業者選定プロポーザルの結果

1. 民間事業者募集の主旨

株式会社札幌振興公社の実施する事業者選定プロポーザルは、当該整備事業の趣旨を理解の上、公社と共同の事業者として施設運営・設計等に参画を希望する方々を募集し、選定を行うものである。

2. プロポーザルの目的

本事業への参画を希望する応募者から、リニューアル施設のデザイン・集客方法等のアイデア、並びに経済性・維持管理方法についての提案（プロポーザル）を広く公募する。特に本施設は、豊かな自然環境を有した藻岩山山頂に位置する施設であることによる環境への配慮と安定的な経営を維持するための採算性が求められるものであることから、民間事業者の知識・技術・ノウハウ等を最大限に発揮する提案を望むものである。

募集要項は、公社が実施する藻岩山魅力アップ構想施設再整備事業（以下「本事業」という。）を実施するにあたり、事業者を公募型プロポーザル方式で選定するために必要な事項を定めるものである。募集要項の付属図書として、設計業務要求水準書、様式集及び資料編を設ける。

3. プロポーザル概要

- ・ 名称 : 藻岩山魅力アップ構想施設再整備 事業者選定プロポーザル
- ・ 選考方法 : 公募型プロポーザル方式
- ・ 対象となる施設 : 展望台

4. 審査委員会の開催日時等と審査

(1) 第1回審査委員会

日 時 : 平成20年12月2日(火) 10:00 から

会議内容 : 第一次審査

決議事項 : 第二次審査への通過事業者の決定

(2) 第2回審査委員会

日 時 : 平成20年12月9日(火) 10:00 から

会議内容 : 第二次審査 プレゼンテーション30分、ヒアリング20分程度

決議事項 : 優先交渉権者(1社)の決定

審査委員会では第一次審査と第2次審査での2グループの提案を受け、厳正に審査を行なった結果、「受付番号-1」を優先交渉権者として決定するに至った。

- ・ 「受付番号-1」 : 合人社・光井純アンドアソシエーツ グループ
代表企業 株式会社合人社計画研究所 代表取締役 福井 滋 様

5. 講 評

「受付番号 - 1」

応募グループは多くのPFI型事業、SPC（特別目的会社）の経営管理等に豊富な実績があり、それ故の着眼点からの提案、潜在する問題点の洗い出し・解決手法において優れた企画力、計画力が総合的に評価された。また組織力としての取組体制、スピード感ある企画作成力が今後の事業の牽引に大いに生かされると評価された。敷地・建物内の客動線処理、輸送能力については、バリアフリーの改善をメインテーマのひとつとして掲げている事業であったため、期待も大きく今後調整が求められる点と指摘があった。

「受付番号 - 2」

応募グループは地の利を活かし札幌、藻岩、積雪寒冷地の特性をよく捉えた提案であった。観光以前に“市民にとっての特別な場”の創出が大切であり、結果観光にも相乗効果をもたらすという市民の視座に立った提案が評価された。独創性も高く、展望台の屋上部分に築山を設けるなど記憶・歴史を継承する施設づくり、また豊かな経験に裏づけされた多彩なイベント・企画が提案された。一方、事業性の面で若干具体性を欠いた内容であったことが結果、得票の分かれ目となった。

6. 事業者選定プロポーザル審査委員会名簿

(敬称略)

	氏 名	役 職	専門分野
委員長	つじい たいち 辻井 達一	財団法人北海道環境財団 理事長	植物 自然環境
委員	いしもり しゅうぞう 石森 秀三	北海道大学観光学高等研究センター長	観光
委員	よしだ けいすけ 吉田 恵介	札幌市立大学デザイン学部 部長 札幌市緑の審議会委員長 景観アドバイザー	景観 バリアフリー
委員	たかはし たけお 高橋 威男	株式会社JTB北海道 代表取締役社長	集客交流
委員	まるやま よしお 圓山 彬雄	社団法人日本建築家協会 前北海道支部長	建築計画
委員	いけだ かずや 池田 和彌	公認会計士 税理士	税務 会計
委員	かじわら たかし 梶原 隆	札幌市観光文化局 局長	行政
委員	ほしの ひきお 星野 尚夫	株式会社札幌振興公社 代表取締役社長	企業経営